令和8年度　第3回　吉賀町まちづくり委員会
議事録

日　時：令和 8 年 10 月 15 日（木）13:30～16:36
場　所：六日市基幹集落センター　大集会室
参加者：末尾に記載のとおり

（事務局）
令和８年度第３回吉賀町まちづくり委員会を開催いたします。副町長から挨拶を申し上げます。

（副町長）
本日は御多忙中にもかかわらず、御出席いただきまして誠にありがとうございます。本日は第３次吉賀町まちづくり計画の話に入ってまいります。吉賀町地方創生アドバイザーの吉長先生に同席いただきまして、後ほどワークという形で議事の進行をお願いしております。皆様にはグループごとにお話しいただくことになろうかと思いますので、遠慮なく、忌憚のない意見をお寄せください。よろしくお願いいたします。

（事務局）
続いて本日の出席者と欠席者を確認します。欠席者のみ報告します。吉賀町内所長連絡協議会の宗内様、朝倉自治会長会の仲村様、柿木自治会長会の草山様が欠席です。ヨシワ工業株式会社の吉野様は遅れて参加されると聞いております。
本日は吉賀町地方創生アドバイザーの吉長先生に参加していただいております。
まちづくり委員会条例第６条第２項では、委員会は委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができないとされております。本日、半数以上の出席があり定足数を満たしていることを確認します。

（事務局）
連絡事項について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）
アンケート調査報告書の修正についてです。お配りしているアンケート調査報告書に修正がありましたので差し替えページを配布しております。21 ページのところですが、高齢者対策の項目が欄外になっており、表示されていませんでしたので、差し替えをお願いします。
また、評価報告書の 46 ページに記載した、住民アンケートで「住み続けたい」と回答した人の割合の実績値に誤りがありましたので、開催案内通知の際に差し替えページを一緒に送っております。そちらも差し替えをお願いします。

（事務局）
質疑はよろしいですか。
続いて３．議事録署名者の選出に移ります。以降は、会長に進行をお願いします。

（会長）
先ほど事務局からありましたように、本日はグループワークの形をとるようです。積極的に意見をいただけたらと思います。
議事録署名者ですけれども、本日は下野さん、河井さんにお願いをしたいと思いますが、よろしいでしょうか。はい。ではお願いいたします。
議事に入ります。(1) 第２次吉賀町まちづくり計画及び第２期吉賀町総合戦略の評価について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）
資料の１をご覧ください。こちらが第１回、第２回の委員会で皆さんにご確認いただいてきた

第２次のまちづくり計画、第２期の吉賀町総合戦略の評価になります。前回、評価（案）として皆さんにお示しし、ご意見があれば、事務局の方へいただくということにさせていただいておりました。それを答申の形にして取りまとめたものが資料１になります。項目と評価結果を取りまとめた一覧と、評価内容には皆さんからお寄せいただいたご意見等を記載しています。前回の委員会から修正があった点は、5 ページの赤字の部分です。「医療だけではなく介護も含めた施策の展開が必要である」というご意見がありましたので書き加えております。また、25 ページは、アンケートの実績値が間違っていたので修正しました。それ以外の項目は、前回の委員会でお示しした内容と変わっておりません。この内容でよろしければ後日会長の方から町長へ評価の答申として提出していただきたいと思います。

（会長）
先ほどの説明について、ご意見等あればお願いします。よろしいですか。それではこれで良いということですので、資料１にありますようにこの文書とともに、私から町長に答申書を手渡したいと思います。
続いて、(2) 第３次吉賀町まちづくり計画及び第３期吉賀町総合戦略の将来像（理念）について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）
前回の委員会で委員の皆さんに、まちの将来像を表すキャッチコピーとそこに込めた思いを提出していただくようにお願いをしました。事務局へ出していただいたものを、そのままままとめたのが資料の 2 になります。次に資料 3 は、その意見を整理したものです。1. のところは共通する考え方や方向性について、4 ページ以降はテキストマイニングというツールでまとめたものになります。資料 4 は、住民アンケート、中高生アンケート、職員ヒアリングなどで出てきた、将来のまちづくりについての意見をまとめたものです。
ここからは吉長先生にお渡しして、委員の皆様とまちの将来像について考えていきたいと思いますが、会長よろしいでしょうか。

（会長）
はい。よろしくお願いします。

（地方創生アドバイザー）※以下「アドバイザー」
改めまして、先ほど紹介いただきました吉長です。今回皆さんの吉賀町まちづくり委員会が担う総合計画の策定に当たって、報告書を作ったり、町長に答申するだけでなく、今後皆さんの世代で実効性があるものにするためにはどうしたらよいか、一緒にアイデアを出す体験を、今日はしていただこうと思っています。
総合計画を書くことによって、町の将来像を共有化してまちづくりを進めていくわけですが、これは役場だけではなく、町民の方々と一緒に官民協働で前に進めて豊かで暮らしやすい地域社会をつくるということを目的としていると思います。
その１つの手法として、ビジネスによって地域社会の課題を解決するという方法があるので、今日は体験をして皆さんと一緒に知恵を出しながらやっていく機会にしたいというのが、今日の私のねらいです。
タイトルとしては、「吉賀町まちづくりのための CB（コミュニティビジネス）、SB（ソーシャルビジネス）を考える」です。ビジネスというとお金もうけというイメージだと思うんですね。少しビジネスについてゼロベースで考えてみたいと思います。

＊アドバイザーによる講話の概要は次のとおり。

「吉賀町まちづくりのための CB、SB を考える」

吉賀町の将来像を実現するため、住民・企業・行政が協働し、ビジネスの手法で地域課題を解決する「コミュニティビジネス（CB)」と「ソーシャルビジネス（SB)」の考え方を紹介した。

1. 地域課題の解決と事業の継続を両立する
CB は、地域住民が主体となり、身近な地域資源を活用して地域の困り事を解決する事業である。CB・SB では、社会に役立つことと、事業を継続するための売上や収益を確保することを両立させる必要がある。また、仕事には収入を得るだけでなく、人に喜ばれることや、生きがい・自己実現につながる価値もあると説明した。

2. 住民・企業・行政がともに公共を担う
地域に必要なサービスや公益は、住民・企業・行政、NPO などが地域のニーズを共有し、協力して生み出していくものである。企業の事業活動や住民の日々の買い物も、地域活動への支援や社会課題の解決につながることを、国内外の事例を通して示した。

3. 事業を考える際には、三つの使命を明確にする
事業の構想に当たっては、次の三つを整理することが重要であるとした。
・**商品・サービスの使命**：どのような商品やサービスを提供し、利用者にどのような価値を届けるか。
・**経済的な使命**：事業を継続するために、どのように収益を確保し、事業基盤を維持するか。
・**社会的な使命**：どのような地域課題を解決し、地域社会をどう良くするか。

4. 地域資源を生かし、人のつながりと価値の循環をつくる
買い物代行による生活支援と就労機会の創出、葉っぱを商品化する地域資源の活用、移動居酒屋による住民の交流などを紹介した。商品を販売する際には、その活動が生み出す見守りや交流、地域コミュニティの維持といった価値にも目を向けることが大切である。また、地域通貨の事例から、互いの得意なことや仕事の価値を認め合い、助け合いや信頼をつなぐ意義を説明した。

5. 将来の地域を育てる視点でお金を循環させる
お金の使い方には、商品やサービスへの「支払い」、将来の価値を育てる「投資」、教育や子育てなど社会の未来を支える「寄付・贈与」があると整理した。目先の経済的な利益に加え、環境や文化、人材などの将来的な価値を共有し、それらを育てるために資金を循環させることが重要であると述べた。

6. 吉賀町の将来像を具体的な事業につなげる
ワークでは、委員が提案した将来像やキャッチコピーを手がかりに、解決したい地域課題を一つ選び、CB・SB の事業案を考えるよう呼びかけた。三つの使命に加え、商品・サービス、価格、提供方法、周知方法、活用・開発する資源を整理し、関係者の間でお金や協力、価値がどのように行き交うかを描くことで、関わる人それぞれに利益がある仕組みを検討することを求めた。

＊講話を受け、まちづくり委員が４つの班に分かれて「ソーシャルビジネス事業立案ワークシート」をもとにグループワークを行った。
＊各班の発表内容とそれに対するアドバイザーのコメントは次のとおり。

○１班　自然・教育を生かした交流と人材をつなぐ仕組みづくり

- 吉賀町の自然や人の温かさを強みとして、モンベルとの関係や町を評価する著名人などを生かし、町の魅力を積極的に発信する。
- 吉賀高校と地域の事業者等との連携を通じて、生徒が地域の仕事を知り、将来地元に戻るきっかけをつくる。
- 高校への県外生・海外生の受入れや地域との交流を支えるため、財団の設立や複数のコーディネーターの配置など、人や団体をつなぐ拠点を設ける。
- リモートワーカーの拠点づくりや、国内外との交流・姉妹都市提携などを通じ、多文化共生と関係人口の拡大を進める。

【アドバイザーのコメント】

地域課題や目指す方向性には共感できる。今後は、誰が事業を担い、どこから資金を調達し、どのようにお金を循環させるかまで具体化することが必要である。課題や希望を、持続可能なソーシャルビジネスの仕組みに落とし込んでほしい。

○２班　自治会業務と暮らしの困り事を支える代行サービス

- 自治会加入者や加入を希望する人の減少を課題とし、自治会機能を維持しながら、住民が緩やかにつながり、困ったときに助け合える仕組みを考えた。
- 草刈りや電球交換など、高齢者や子育て世帯だけでは対応が難しい作業を担う、自治会業務・生活支援の代行サービスを提案した。
- 手頃な定額会費による利用を想定し、仲介の仕組みを設け、登録した担い手へ仕事を依頼する。
- 自治会間でも人材や資金を融通し、限られた地域資源を有効に活用する。周知には、回覧板、LINE、広報紙に加え、水道検針など住民と接する機会も活用する。

【アドバイザーのコメント】

お金の流れをつくる前に、地域にある「仕事」を見つけることが大切である。所属や職業だけでなく、住民の趣味や得意なことを把握し、共有する仕組み自体にもビジネスの可能性がある。既存の仕組みでは、シルバー人材センターが参考になる。

○３班　地域のニーズと人材・サービスを結ぶ仲介の仕組み

- 多様な地域課題に共通する視点として、「必要なものを見つける」「人やサービスを引き合わせる」ことに着目した。
- 地域を訪れる大学生などの若い力と、草刈りなどで人手を必要とする地域をつなぐ仕組みを考えた。
- 外国人実習生の住まいや情報の確保、移住支援など、幅広い分野で代行・仲介サービスの可能性を挙げた。
- 町の LINE へのクーポン機能の追加や、町の配布物への登録用 QR コードの掲載などを提案した。交通、観光、アウトドア分野でも、利用者とサービスをつなぐ仕組みの活用を考えた。
- 対象分野を一つに絞り、事業内容を深めるところまでは至らなかった。

【アドバイザーのコメント】

他のグループとも共通する課題や手法が見られた。SNS などのオンラインツールを、地域

のニーズと人材・サービスを結ぶためにどう活用するかが、ビジネスモデルを考える要素になる。

○４班　川・遊休農地・空き家を活用した体験と交流

- 子どもが安全に遊べる場所の減少を出発点に、農家の減少、遊休農地、空き家の問題を組み合わせて考えた。
- 川遊びや鮎釣り、遊休農地を活用した農業体験、空き家を活用した民泊や自給自足生活の体験を提供する。
- 町内の居場所づくりとともに、町外からも利用者を呼び込み、町内外の人のつながりをつくる。
- 農家、空き家所有者、道の駅、交通事業者などとの協力を想定し、SNS、YouTube、ホームページで情報を発信する。
- 人件費や維持管理費などの費用項目は挙げたが、具体的な料金設定までは至らなかった。

【アドバイザーのコメント】

地域課題と地域資源がうまく組み合わされている。観光では、見物するだけでなく、地域の文化や暮らしを体験する需要が高まっており、吉賀町にも提供できる資源がある。需要と供給をつなぐ仕組みを整えるとともに、空き家所有者や行政などの役割を整理することが必要である。行政に資金を求める関係から、民間と行政が横並びで協力する官民連携へと発展させる可能性がある。

【全体に対するアドバイザーのコメント】

- 提案を出したままにせず、少なくとも一つはビジネスモデルとして具体化し、社会実験などを通じて実践してほしい。
- 誰かが実行するのを待つのではなく、委員自身が当事者として一歩を踏み出し、成功事例を体験することが大切である。
- 本や図書館、健康づくりなども CB・SB につながる資源であり、既存の取組についても、効果をデータで示すことで存在意義や支援の必要性を伝えられる。
- 「地域の課題は地域資源でもある」という視点で、住民の本音やニーズを対話から把握し、人や資源をつなぐ仕組みを事業化することが、総合計画の実効性を高める。

＊続いて、これまで委員が提案した将来像やキャッチコピーを、擬音語・擬態語である「オノマトペ」を使って短く表現し、吉賀町の魅力や目指す姿を捉え直すワークを行った。まず、一人ひとりが自然や人の温かさ、暮らしの感覚などを言葉にし、グループ内で共有した。その後、先に検討した地域課題やビジネスのアイデアも踏まえ、10 年先の吉賀町への思いが伝わるキャッチコピーを考え、全体で発表した。

＊各グループの発表内容は次のとおり。

○１班　自然の輝きと、じわじわ伝わる人の温かさ

- 「人はふわっと、自然はキラキラ」と表現した。
- 話し合いでは「じわじわ」という言葉で盛り上がり、時間をかけて感じられる町の魅力や人の温かさを表現した。
- 主な案は「じわじわしみる吉賀町」「じわじわ沁みる清流と人のぬくもり 吉賀町」「人はよしよし吉賀町」。

○２班　輝きや安らぎ、過疎を前向きに捉える表現

吉賀町から連想する言葉をもとに、次の８案を発表した。

- 「キラキラ」
- 「ほっこり」
- 「KASOCHI タウン」
- 「キラキラ KASOCHI タウン」
- 「KASOCHI 吉賀タウン」
- 「ミセスグリーン吉賀」
- 「幸せの源流 吉賀」
- 「キラキラした未来を創るよしか」

※「過疎地」はアルファベット表記とする説明があった。

○３班　気軽に訪れ、自由に暮らせるまち

- 「ふらっと寄れる また来たくなるまち」
  外国人も含め、さまざまな人が気軽に訪れられるまちを表現した。
- 「人の集まる KASO の町」
  「人が集まる」と「過疎」という対照的な言葉を組み合わせ、町のありたい姿を表現した。
- 「のらりくらりと暮らして吉賀町」
  自由に未来を生き、自分らしく暮らすイメージを込めた。

○４班　人の循環、期待感、土や食の温かさ

- 「くるくる吉賀町」
  人が訪れたり、地域の中を巡ったりする様子を表現した。
- 「ざわくる吉賀町」
  何かが起こりそうな「ざわざわ」という期待感と、「くるくる」を組み合わせた。
- 「ほくほか吉賀町」
  温かさや、土・野菜から感じるイメージを表現した。

【アドバイザーのコメント】

- オノマトペは、自然の音や物事の状態、動き、感覚などを短く表現できる、日本語の豊かな表現である。同じ音を繰り返す言葉に限らず、自由に発想してほしい。
- 吉賀町で暮らす人や訪れる人が感じることを、視覚・味覚・触覚などの感覚から言葉にすることで、新たなアイデアが生まれる。
- キャッチコピーは、長い計画書の内容や思いを、表紙の一行で伝える重要なものである。
- 今回で検討を終えるのではなく、今後の委員会でも、町の将来像を短い言葉でどう表すかを意識し続けてほしい。
- 身近な地域の魅力や資源に改めて目を向け、総合計画づくりにつなげてほしい。

（事務局）
資料５として年間スケジュールをお配りしております。年度内に計画をつくり上げるということで、今後の委員会の日程、パブリックコメントなども含めてスケジュールを改めて作りました。今後の委員会は 12 月 3 日、1 月 6 日、2 月 16 日に開催予定です。また次期計画は、今の計画よりもスリムなものにしようと思っています。その参考イメージとして他町の計画書を配布させていただいております。

（会長）
委員の皆様から何か質問やご意見があればお願いします。いかがでしょうか。いいですかね。
それでは今日はグループワークという形で、皆さんもいろいろと発言ができたんじゃないかなと思います。これからは計画策定の作業に入られるということで、次回は素案を見ていく流れになるかと思います。
それでは、よろしければ、進行を事務局にお返ししたいと思います。

（事務局）
レジュメのその他のところに、次回のまちづくり委員会の日程と今週の土曜日に開催する勉強会について記載しています。ご都合のつく方は、勉強会にご参加ください。

（事務局）
第３回のまちづくり委員会を終了させていただきます。
本日はありがとうございました。

令和８年度　第３回吉賀町まちづくり委員会

まちづくり委員会委員　　令和 8 年 10 月 15 日

所属・団体	氏　名	区分	出欠	備　考
吉賀町農業委員会	杉ノ内　孝太	産業	出席	
吉賀町商工会	澄川　寛	産業	出席	
ヨシワ工業株式会社	吉野　かおり	産業	欠席	
株式会社森の環	能美　健生	産業	出席	
吉賀町教育委員会	下野　知美	教育	出席	
島根県立吉賀高等学校	河井　俊彦	教育	出席	
西中国信用金庫　吉賀支店	有田　健太郎	金融	出席	
島根県農業協同組合　六日市支店	田中　章文	金融	出席	
吉賀町内所長連絡協議会	宗内　朱美	子育て	欠席	
地域おこし協力隊	孫　悦	多文化共生	出席	
一般社団法人高津川てらす	北川　智利	町内団体	出席	
社会福祉法人吉賀町社会福祉協議会	永田　和代	福祉	出席	
医療法人カタクリ会	松浦　聖	医療	出席	
司法書士・行政書士	藤井　健司	士業	出席	
島根県西部県民センター益田事務所	斉藤　洋史	行政	出席	
柿木自治会長会	草山　美奈子	住民	欠席	
蔵木自治会長会	山吹　彰	住民	出席	
六日市自治会長会	河口　貴哉	住民	出席	
朝倉自治会長会	仲村　明洋	住民	欠席	
七日市自治会長会	末岡　優里	住民	出席	

アドバイザー

吉賀町地方創生アドバイザー	吉長　成恭		出席	

事務局

所属	氏　　名	職名		備　考
吉賀町	深川 仁志	副町長	出席	
吉賀町　企画課	深川　竜也	課長	出席	
吉賀町　企画課	長藤　朋弘	課長補佐	出席	
吉賀町　企画課	野村　一恵	課長補佐	出席	
吉賀町　企画課	若狭　拓郎	統括主幹	出席	
ひとはたからマネジメントオフィス	森脇　竜一	支援事業者	出席	